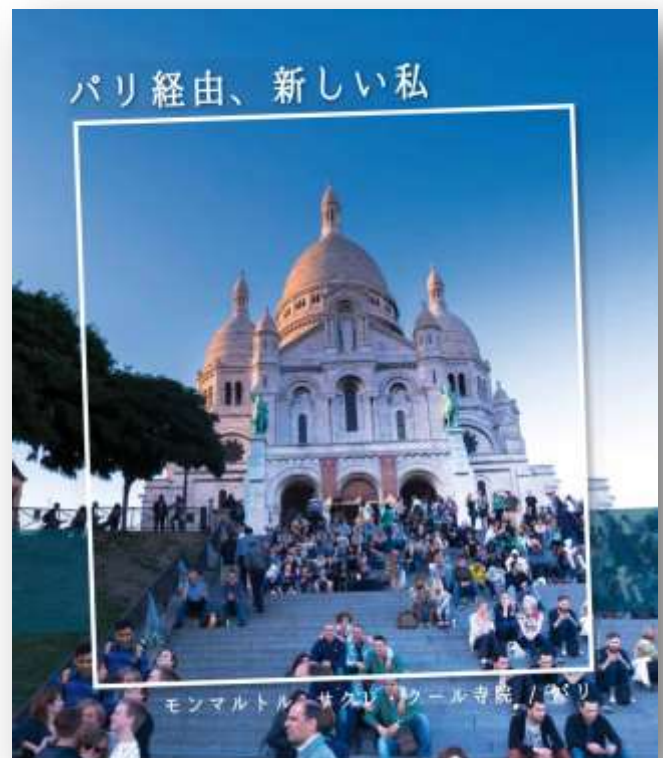
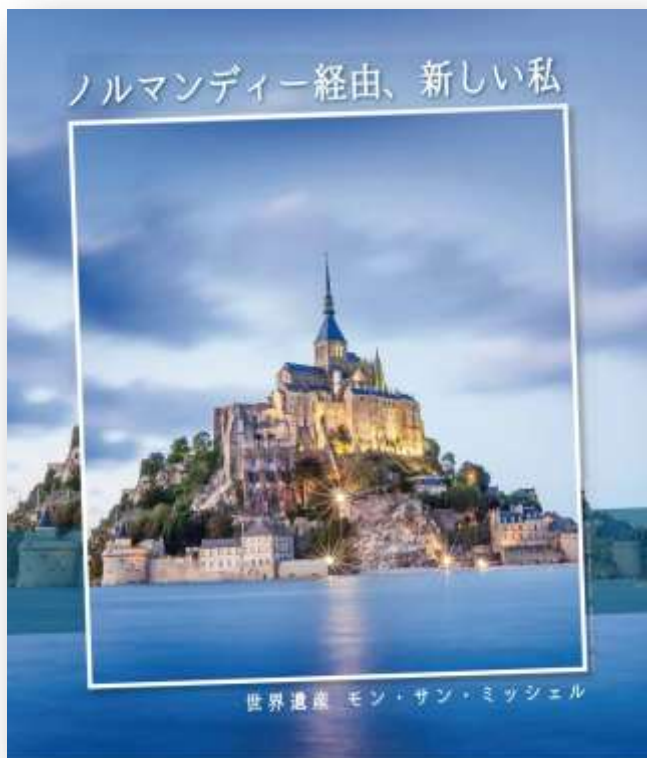


2017 年度フランス観光キャンペーン

フランス経由、新しい私

La France, ça vous change

プレス資料



2017年3月15日

AIRFRANCE 


Normandie
印象派のふるさと

**VISITPARIS
REGION** 


France france.fr

フランス経由、新しい私

はじめに

皆さんが旅へ出ようと思う時、それはどんな時でしょう。

頑張った自分にご褒美をあげたい時、マンネリな日常から脱却したい時、大事な人と思い出を作りたい時、またはある人との関係を違う形にしたい時…。

その瞬間はいずれも、自分の人生を大なり小なり軌道修正してみたいと思う時かもしれません。

フランスにはどんな心の有り様にもびたりと嵌る幾多の「風景」があり、あなたを幸せにする「食」があり、それを育む人々の「暮らし」があります。ぜひそれを体験してください。あなたの心が感じるままに、フランスはあなたに語りかけてくるでしょう。

旅が終わる頃、あなたは今までとちょっと違う自分になったことに気付くはずです。

フランスは旅の目的地ではなく、新しい自分に出会うための扉なのです。

Bon Voyage!

フランス観光開発機構 在日代表
フレデリック・マゼンク

目次

キャンペーン概要	2
2017年フランス観光親善大使プロフィール	6
ピックアップデステイネーション	
ノルマンディー地方	8
パリ・イルドフランス地方	12
印象派～幸せなひとときを求めて	16
パートナー団体ご紹介	18



キャンペーンビジュアル



屋外広告

バス停広告

- ◇ 上記ビジュアルのポスターを都内停留所 70 カ所に設置
- ◇ 3/20~4/2 (14 日間)
- ◇ ポスター総数 70 枚



ラッピングカー

- ◇ プジョー308 にキャンペーンビジュアルをラッピングした車 8 台が都内を走行します。
- ◇ 3/20~4/2 (14 日間)



キャンペーンサイト

<http://jp.france.fr/taiken2017>

フランスで新体験

記憶に残る体験型の旅を提案します。



ロダン庭園 © Alexis Berg



© Monetta / Perrault Architecture / Adagp - Lauriot-Prévost Design / Adagp



© E. Tessier - D. Dumas CRT Normandie



© Monetta / Perrault Architecture / Adagp - Lauriot-Prévost Design / Adagp



©Thierry Houyel



© CRT IDF/Tripelon-Jarry



© 4 roues sous 1 parapluie



© Patrick Forget sagaphoto.com CRT Normandie



© Erik Levilly Direction Communication Ville du Havre

フランス体験レポーター

フランス体験レポーターとは？

1組2名のペアで6～7月にかけてパリとノルマンディー地方の旅行に出発し、とっておきの旅体験をしていただきます。旅の様子は同行のスタッフ、カメラマンがビデオに撮影し、帰国後にキャンペーンサイト上で公開されます。



応募方法



フランス体験レポーターへの意気込みを表現したアピールビデオを60秒以内で制作し、YouTubeへアップロード投稿。キャンペーンサイト内の応募フォームから必要事項と、投稿動画のURLまたは共有コードを記入して応募。

応募締切： 2017年4月24日（月）



くまモン

2011 年 3 月 12 日、熊本生まれ。熊本県営業部長兼しあわせ部長として、日本および世界各地を
とびまわる。

パリで開催される日本のサブカルチャーイベント「ジャパン・エキスポ」へ 2013 年より参加する
ため、毎年渡仏しているフランス旅のリピーターでもある。

「パリから先のフランス」へ足を伸ばすことも多く、これまで訪れた場所はモン・サン・ミッシェ
ル、カンヌ、ボルドー、リヨン、ボージョレなど。

旅の様子を SNS で精力的に発信しており、日本はもちろん、フランスを含む海外ファンからその
動向が注目されるスーパースター。

2017 年 2 月、来日中のアンヌ・イダルゴ パリ市長と面会し、これまでのパリ訪問によってパリを
明るい話題で盛り上げてくれたことを感謝される。

2017 年夏にもジャパン・エキスポ参加のために渡仏予定。

くまモン基本プロフィール

誕生日：3 月 12 日（九州新幹線全線開業の日）

出身地：熊本県

性別：男の子

くまモン公式サイト <http://kumamon-official.jp/>

くまモン公式 Twitter [@55_kumamon](https://twitter.com/@55_kumamon)

くまモン Facebook www.facebook.com/kumamonofficial



香山リカ

リカちゃんは、フランス人のパパ、ピエール（音楽家）と、日本人のママ、織江（ファッションデザイナー）の間に生まれた、日仏ハーフの女の子。近年では、「リカちゃん」と共に時代を歩み成長した大人の方にも愛されるブランド「Licca（リカ）」を展開。タレント名鑑にも掲載されるなど「今を生きる女の子」としてタレントとしても活動中。小学5年生ながら類まれなるセンスで、自身の公式ツイッターやインスタグラムをベースに抜群の発信力を誇る。

2016年はパリで特別展「Licca-Symbol of Kawaii」を開催し成功を収めた。

2017年は誕生から50周年を迎え多忙なスケジュールが予想されるも、パパの出身地フランスでしっかりバカンスをとる予定。

リカちゃん基本プロフィール

名前：香山リカ（Licca KAYAMA）

年齢：11歳（小学校5年生）

誕生日：5月3日

身長：142cm

血液型：O型

リカちゃん公式 Twitter @bonjour_licca

Licca Kayama Instagram @bonjour_licca



© S.Lorkin

パリ＝イル・ド・フランス地方に隣接するノルマンディー地方はモン・サン・ミッシェルとその湾、エトルタの崖、ジヴェルニーのクロード・モネの庭園など数々の名勝地で知られています。印象派のふるさとで、多くの画家や芸術家にインスピレーションを与えた地ノルマンディーは、海と田園地帯のあいだに広がり、ロマンティックで牧歌的な雰囲気を訪れる人をあたたかく迎えます。

ルーアンで大規模ピカソ展

2017年4月1日から9月11日までルーアン Rouen の3つの美術館で、パブロ・ピカソの200点を超える作品や文献の展覧会が開かれます。中には未公開のものも含まれます。会場となるルーアン美術館 Musée des Beaux-Arts、陶芸美術館 Musée de la Céramique、ル・セック・デ・トゥルネル美術館 Musée Le Secq des Tournelles で展示されるのは彫刻、絵画、デッサンで、ピカソがノルマンディー地方で過ごした1930年代の大変充実した、しかし知られざる作品群にスポットをあてます。ピカソはユール県ジジュールの近郊のボワジュール城を手に入れ、パリに住み続けながらもこの城を別荘とし、ここに初めての彫刻制作用アトリエを作りました。この時期のピカソは彼のミューズ、マリー＝テレーズ・ヴァルテールにインスピレーションを得て絵画、デッサン、版画から写真にいたるまで多くの分野で大変意欲的な創作活動を展開しました。

ノルマンディー滞在時代のピカソに注目した初の大規模な展覧会となるその内容は次のとおり。ルーアン美術館の「ボワジュールのピカソ」展ではこの地の歴史とそこに向けられたピカソの視点をたどり、ルーアン陶芸美術館の「パブロ・ピカソの陶芸彫刻」展では革新的な作品を紹介。またル・セック・デ・トゥルネル鉄細工美術館の「ピカソとゴンサレス、鉄の友情」展ではふたりの鉄製彫刻作品が対峙します。



Pablo Picasso (1881-1973), Nu couché, Boisgeloup, 4 avril 1932, huile sur toile, 130 x 161 cm. Musée national Picasso-Paris, datation Pablo Picasso, 1979, MP142. © Succession Picasso -2017 © RMN-Grand Palais (Musée national Picasso-Paris) / René-Gabriel Ojéda



Pablo Picasso (1881-1973), Colombe, Vallauris, [1953], terre blanche : lastre modelée, décor aux engobes et incisions, 15 x 26,3 x 13,5 cm. Musée national Picasso-Paris, datation Pablo Picasso, 1979, MP3721. © Succession Picasso 2017 - Photo © RMN-Grand Palais (Musée national Picasso-Paris) / Béatrice Hatala

ルーアン美術館・博物館 MUSEES DE ROUEN
<http://musees-rouen-normandie.fr>
 ルーアン観光局 www.rouentourisme.com

ル・アーヴル開港 500 周年、「印象、日の出」が帰ってくる



© Erik Levilly Direction Communication Ville du Havre

ユネスコの世界遺産にも登録された港湾都市ル・アーヴル Le Havre では2017年5月27日から11月5日まで、さまざまな行事で町の創立と開港の500周年を祝います。多くのプロジェクトが集結した一大芸術イベント「ル・アーヴルの夏 2017」で市街も港の周辺も華々しい賑わいをみせることでしょう。5か月の期間中、さまざまな出会いと発見、展覧会、各種イベントがル・アーヴルの代表的な名所で、あるいは知られざる場所で繰り広げられます。世界的に有名なアーティストたちがこの港町を新しい視点でとらえたインスタレーションを創作。期間中のみ設置されるものもあれば、永久保存されるものもあります。

芸術的、大衆的ビッグイベントが数々予定されていますが、そのオープニングを飾って5月27日には町の高地と低地を結ぶ大パレードが行われます。そしてカトリーヌ・ランジェ Catherine Ringer が大コンサートイベントを開催し、コンパニー・ロワイヤル・ド・リュクス の巨大操り人形がル・アーヴルの街を練り歩き（7月6～9日）、火薬を用いたパフォーマンスで知られる中国人アーティスト蔡國強 Cai Guo-Qiang の花火が10月8日の日の出とともに打ち上げられます。

今回の記念イベントプログラムには数々の重要な展覧会も含まれています。アンドレ・マルロー近代美術館 (MuMa)では5月27日から8月20日まで、ポートレート専門の写真家と画家の芸術家ユニット「ピエールとジル Pierre et Gilles」の回顧展が開かれます。

さらにル・アーヴル港湾駅 gare maritime では5月27日から10月8日まで、**大西洋航路を行き来する船会社に関する記録のヨーロッパ最大のコレクション**が展示され、港町ル・アーヴルの歴史をたどることができます。また500周年の諸行事に花を添えるイベントとして、**9月9日から10月8日までクロード・モネの傑作「印象、日の出」が、その描かれた町ル・アーヴルに帰って来ます。**「印象派」の名前の由来となったこの名画は、マルロー美術館 (Muma) で開催される大印象派展でも注目を浴びる作品となることでしょう。

「ル・アーヴルの夏 2017」の全イベントプログラム：
www.uneteauhavre2017.fr

ル・アーヴル観光局 www.lehavretourisme.com

エトルタの新名所：アモンの崖にアートな庭園



昨年9月、エトルタ Etretat の最も高い崖の上に新しい庭園がオープンしました。そもそものは1905年、造園家のオーギュスト・ルカニユと女優のテボー夫人の手により、アモン（上手）の崖に最初の植樹がなされたのが「エトルタの庭園」創造の第一歩でした。

そして今、**建築家造園家のアレクサンドル・グリヴコ**により庭園は新たな姿を現しました。グリヴコはその創作において人と自然の関係を尊重してきましたが、**自然とアートの調和**を求めた結果、**きわめて複合的かつ美的な庭園**が生まれたのです。

庭園はいくつもの部分に分かれており、どれも自然と海辺を旗印に掲げています。たとえばモチノキの刈込から成る「アヴァター」の庭は、訪れる人を人間が自然と完璧に調和して暮らす国、ニュージーランドへと連れて行ってくれます。「エレメント」の庭では細かく刈り込まれた灌木が、潮や波などさまざまな海の動きを象徴的に表現しています。

これらの幻想的な庭の中心には、シンプルながら未来的なフォルムの植物性彫刻が点在し、詩的でアートな散策が楽しめます。2017年にはまた新しい庭が加わって、エトルタの新名所はさらに充実した内容となる予定です。

エトルタ庭園 JARDINS D'ETRETAT www.etretatgarden.fr

グランヴィルのクリスチャン・ディオール記念館、メゾンの創業70周年を祝う

2017年、ディオールは**クチュールのメゾンを創業して70周年**を迎えます。その機会にグランヴィル Granville のクリスチャン・ディオール記念館では**この夏ディオールの作品展を開催**します。

ディオールは1947年から1957年にかけて**22のオートクチュールコレクション**を創作し、それ以後も精力的に新しいラインを発表し続けました。死後60年たった今でも、「**クリスチャン・ディオール**」は**世界で最もよく知られたフランス人の名前のひとつ**です。



© E. Ursule CRT Normandie

フランスでは**唯一のひとりのデザイナーに捧げられたミュージアム**であるクリスチャン・ディオール記念館は、グランヴィルのディオール家の屋敷内にあります。彼はここで幼少期を過ごし、少年期にはバカンスで訪れていました。海を正面に見る位置に建ち、ベル・エポックを彷彿とさせる素晴らしい庭園に囲まれたその家は、いつまでもディオールの心に残り、そのデザインにインスピレーションを与え続けました。“私が子供時代を過ごした家、ここにまつわる思い出は懐かしく感嘆に満ちている。なんといいのだろう、私の人生や私のスタイルのほぼすべては、この環境と建築に負っているのだ。”

この展覧会では、ディオール一家がグランヴィルに住んでいたころの**思い出の品々が展示**され、この時代のエスプリを思い起こさせるしつらえで家がいきいきと甦ります。どの部屋もそこに置かれた愛用品や写真で家族の誰かひとりを想起させるようになっているのです。また**オートクチュールのドレス**も多数展示されます。

クリスチャン・ディオール記念館 MUSEE CHRISTIAN DIOR
www.musee-dior-granville.com

ジヴェルニーに行ったら船上ホテルに泊まってみない？

ヨーロッパ東部の河川や運河を40年余りにわたって航行してきた平底船**ドルチェ・リーヴァ号**は、2016年の春から、ノルマンディー地方の東端ヴェルノン Vernon でセーヌ河畔に係留しています。以前は穀物運搬に使われていた船が、今は**2フロアの豪華な水上ホテルに変身**しました。地中海クルーズの豪華客船をイメージした船内の**3つのキャビン**はどれも広々として（18~60 m²）洗練されたデザイン。どのキャビンにも専用のバスルームがあるほか、宿泊客が利用できる**スバ**も備えています。大きなガラス窓のメインリビングから望む**周囲の自然景観**は信じられないほどのすばらしさ、船内の階段を下りれば川面を身近に見渡せるサロンがあります。パリからわずか40分、ジヴェルニーからは10分の位置にあるドルチェ・リーヴァ号は**美しい自然に囲まれてリフレッシュ**するには絶好の

場所といえるでしょう。船内に漂うゆったり感はきっと皆に伝染すること間違いなしです！



ドルチェ・リーヴァ号
PENICHE DOLCE RIVA - PARIS LUXURY BOAT
<http://parisluxuryboat-houseboat.blogspot.fr>

バイユーのタピストリーが元の場所に再登場 カテドラルの音と光のスペクタクルへ



© CB - OT Bayeux Intercom

ノルマンディー公ギヨーム（ウィリアム）2世がイングランド王ハロルド2世を打ち破った「ヘイスティングスの戦い」の950周年を迎えた2016年、ノルマンディー地方ではさまざまな記念行事が開催されました。その流れでバイユー観光局が新たに立ち上げた冬のイベント、それが「ギヨームのカテドラル」です。

特別な委嘱により制作されたこの新スペクタクルは、かの有名なウィリアム征服王 Guillaume le Conquérant（ウィリアムはギヨームの英語名）の壮大な叙事詩を最新の技術による映像と音声で再現しています。「バイユーのタピストリー-Tapisserie de Bayeux」（70メートルもの亜麻布に毛糸の刺繍でギヨームの物語を描いた大絵巻）も制作当初これを所蔵していたカテドラルにバーチャル帰還、すなわち非常にダイナミックかつ精巧なプロジェクションマッピングでカテドラル内に姿を現すのです。スペクタクルの始めに征服王の壮大な物語にまつわる歴史が、バイユー司教でギヨームの異父兄弟オドンによって語られます。そしてカテドラルの身廊の両側の欄干（観客席の左右の頭上）、おそらくはタピストリーが初めて展示された場所、にタピストリーの映像が流れ、その端から端まですべてを見ることができます。流れる映像と色とりどりの光がスタンドグラスや身廊・内陣のさまざまなパーツを鮮やかに彩り、場内には効果音が響き渡ります。上演時間約15分のスペクタクルは**入場無料**、ただし一度に入場できるのは200名に限られます。2016年12月に始まり、**2018年まで毎年12月の1か月間上演されます。**

2016年12月3～31日の水曜、土曜、日曜（24日、25日を除く）
18時～20時まで30分ごと上映
バイユー観光局 www.bayeux-bessin-tourisme.com

常に変化を遂げるモン・サン・ミッシェル

絶景スポットとして有名なモン・サン・ミッシェルは常に修復工事を重ねており、2016年は僧院の頂上に聳える大天使ミカエル像の取替え工事が行われました。2017年には「メルヴェイユ」の中庭を一年かけて修復します。（修復中も観覧は行います）。

- 夏の夜間特別観覧「僧院の秘密の住人」
2017年7月10日～8月26日
- 大潮の特別夜間観覧 « Grandes marées »
大潮にあたる2017年4月28日（金）、5月26日（金）、5月27日（土）、欧州でもっとも高い潮位を観測するモン・サン・ミッシェル湾の潮の上昇を、僧院テラスという絶好の観測ポイントから眺めませんか。満潮になる1時間45分前から観察できます特別に22時30分までオープンします。



© P. Berthé, CMN



© Marc Papillard - CMN



ノルマンディーの楽しみ方

食を極める

カマンベール、シードル、カルヴァドス、海の幸…。ノルマンディーではいたるところで多種多様なおいしいものに出会えます。昔ながらの蒸留所を訪ねて、魚市場に行き、あるいは料理教室に参加して！

ル・アーヴルでは、「クロード・モネの料理帳」のレシピを再現する料理教室があります。



シードルとノルマンディーのチーズ © Patrick Forget/sagaphoto.com CRT Normandie

大自然に触れる

エトルタの崖に沿った小道を散策してみる、モン・サン・ミッシェル湾を干潮時に歩いて横断してみる、干満の差が激しいモン・サン・ミッシェル湾で大潮を観測する、あるいは帆船でショゼ諸島まで足を延ばす…。ノルマンディーの海岸部では自然志向 100% のレジャーが満喫できます！



モン・サン・ミッシェル湾を歩いて渡る © K. Riley CRT Normandie

映画

ノルマンディー地方がインスピレーションを与えたのは画家たちだけではなく、映画製作者も同様です。「ダバダバ〜♪」の音楽でおなじみ、クロード・ルルーシュ監督の名画「男と女」の舞台となったドーヴィルは、今や映画の町。毎年9月上旬にアメリカ映画祭が開催されます。



アメリカ映画祭 © Patrice Le Bris OT de Deauville

ライフスタイル・スパ

ドーヴィルでショッピング、ノルマンディーに数あるタラソテラピーセンターのどこかでスパ、名産のグルメを味わったり、友達と料理教室に参加したり…。ノルマンディーなら、フランス式ライフスタイルを体験しながら快適に過ごせる方法がいくつも見つかります。



カブール Cabourg のタラソテラピーセンター Thalazur でトリートメント © Thalazur Instituts de Thalassothérapie&spa

アートと建築

ル・アーヴルの町を訪ねてみましょう。ここは印象派の生まれた町、そして建築家の町。クロード・モネやウジェーヌ・ブーダンなどの画家のみならず、ジャン・ヌーヴェル、オスカー・ニーマイヤー、オーギュスト・ペレなどの建築家にも多くのインスピレーションを与えています。2017 年は開港 500 年の記念祭でイベントも目白押し。ポスター画家レイモン・サヴィニャックが暮らしたトゥルーヴィルには街中に彼の作品が残ります。



ル・アーヴルの街並み © Friedberg Fotolia.com

庭園

ノルマンディーの各地でさまざまな庭園が皆さまをお待ちしています。最近オープンしたエトルタの崖の全景がきれいに見渡せる庭園、花咲き乱れ、樹木の生い茂る庭園、そして必見はジヴェルニーにあるクロード・モネの庭です。



モネの庭園と家（クロード・モネ財団） © Thierry Houyel

プレスコンタクト

Comité Régional de Tourisme de Normandie ノルマンディー地方観光局
Edouard VALERE エドゥアル・ヴァレール e.valere@normandie-tourisme.fr
Marketing Manager マーケティングマネージャー
Tél. : +33 (0)2 32 33 07 07 www.normandy-tourism.org



パリ・イルドフランス地方



パリ＝イル・ド・フランス地方は世界一の観光デスティネーション。訪れる人が得られる体験は実に多種多様で、しかも絶えず新しいものが登場しています。アート、ショッピング、グルメ、ぶらぶら歩き、都市文化、ナイトライフにお祭り…。またパリ＝イル・ド・フランス地方は印象派の画家たちの足跡をたどると同時に、素晴らしい美術館の数々を訪ねてその作品を鑑賞することもできる稀有な土地でもあります。リニューアルを続けるパリのさまざまな表情や、最新のトレンドに出会ってください。

新オープンの博物館・美術館

香水大博物館

フォーブール・サントノレにある 18 世紀の邸宅内にオープンした新しい博物館。感覚をときすませて香水の世界の探訪に出かけましょう。そこには多くの学びがあり、芸術との出会いがあります。

香水博物館 GRAND MUSEE DU PARFUM
www.grandmuseeduparfum.fr/



イヴ・サン＝ローラン記念館オープン (2017 秋)

ピエール・ベルジェーイヴ・サン＝ローラン財団 Fondation Pierre Bergé - Yves Saint Laurent (はリニューアルし、2017 年には館内に新しくイヴ・サン＝ローラン記念館がオープンします。

イヴ・サン＝ローラン記念館 Musée Yves Saint Laurent
www.fondation-pb-ysl.net

フェルメールとオランダ黄金時代の巨匠たち

於ルーヴル美術館 (2月22日～5月22日)

Musée du Louvre

ヨハネス・フェルメール(1632-1675): 変容の画家。



© Musée du Louvre / Angèle Dequier

2017 年、パリとイル・ド・フランス地方で 4 つのピサロ展が開催

今年のカミーユ・ピサロに関して格別に話題が豊富な年。印象派の巨匠ピサロに特化した 4 つの展覧会がほぼ同時期に開催されます。そのうち 2 つはパリ西北郊外ヴァル・ドワーズ県 Val d'Oise に関連したものです。

カミーユ・ピサロ「最初の印象派画家」Camille Pissarro « Le premier des Impressionnistes »
(2017 年 2 月 23 日～7 月 2 日)

マルモタン・モネ美術館 Musée Marmottan Monet でパリでは 36 年ぶりのピサロ単独の展覧会。



エラニーのピサロ、無秩序と自然

Pissarro à Eragny, l'anarchie et la nature

カミーユ・ピサロの生涯の中でもあまり知られていない時期、ヴァル・ドワーズ県エラニー-Eragny 滞在時代の作品がリュクサンブール美術館 musée du Luxembourg で展示されます。

カミーユ・ピサロ - 印象派銅版画展

Camille Pissarro - Impressions gravées

(2017年3月19日～6月11日)

タヴェ・ドラクール美術館 Musée Tavet-Delacour

カミーユ・ピサロとエドガー・ドガは印象派の版画を考案しました。ピサロが初めてのエッチング(腐食銅版画)作品を創作したのは1860年代初頭のこと、この展覧会は銅版画の分野におけるピサロの作品展としては最大規模のものとなります。

カミーユ・ピサロと仲間たち - オワーズの印象

Camille Pissarro et ses amis - Impressions de l'Oise

(2017年3月19日～6月11日)

カミーユ・ピサロ美術館 Musée Camille-Pissarro

新展示室を加える拡大整備を終えたピサロ美術館(ヴァル・ドワーズ県)で、ピサロおよびヴァル・ドワーズ県の印象派&ポスト印象派風景画家たちの作品展が開催されます。

注目の展覧会

パリ - トーキョー ブリジストン美術館(東京)の名品展

Paris-Tokyo, chefs-d'œuvre du Bridgestone Museum de Tokyo

(2017年4月5日～8月21日)

新築工事のため長期休館中の東京のブリジストン美術館の所蔵作品が、ヨーロッパではただ1か所パリのオランジュリー美術館 musée de l'Orangerie で公開されます。

セザンヌの肖像画展 Portraits de Cézanne

(2017年6月13日～9月24日)

ポンピドゥー・センター Centre Pompidou

セザンヌの作品中、肖像画はこれまであまり注目されて来ませんでしたが、この分野こそがセザンヌの芸術の最も人間的な部分であり、それゆえ彼の最も私的な側面を見出すことができます。



G.Targat / CRT Paris Ile-de-France

美術収集家モネ Monet collectionneur

(2017年9月14日～2018年1月14日)

マルモタン・モネ美術館 musée Marmottan Monet では美術品収集にも情熱を燃やした画家モネの初の所蔵作品展が開催されます。

錬金術師ゴーギャン Gauguin l'alchimiste

(2017年10月5日～2018年1月21日)

かつてない視点からゴーギャンの作品と、彼がいかにしてその時代に革命をもたらしたかを見て行きます。

「庭園」展 Exposition

(2017年3月13日～7月24日)

グラン・パレ ナショナル・ギャラリー Galeries Nationales du Grand Palais

「庭園」展は、自然を眺め、演出し、構想する技を見せる展覧会です。

ここではヨーロッパ、とりわけフランスで行われたさまざまな実験作業に的を絞り、ルネサンス期から現在までの時代を扱っていますが、それ以外の地域や時代もいくつか探訪しています。

夜の城館で

ヴェルサイユ宮殿で夜の噴水ショー

Grandes eaux nocturnes

夜の帳が下りると、アンドレ・ルノートルの設計によるルイ14世の王宮庭園は、音響と光に彩られた2時間半の驚くべき散策コースに変わります。インスタレーション、水の饗宴、レーザー光線と花火のスペクタクルが大運河の前で繰り広げられ、見る人を夢のような感動のひとときへと誘います。



© CRT IDF/Tripelon-Jarry

ヴォー・ル・ヴィコント城のキャンドルナイト
Soirées aux chandelles à Vaux le Vicomte

時の大蔵卿フーケが1661年に開催し、ルイ14世の強烈な嫉妬をかった壮麗な宴にちなんで、毎週土曜の夜はヴォー・ル・ヴィコント城 Vaux le Vicomte の城内と庭園で2000本のキャンドルが灯されます。花火も打ち上げられてこの見事な城と庭を彩ります。



© CRT IDF/Tripelon-Jarry

ル・コルビュジェ建築のラ・ヴィラ・サヴォワが世界遺産登録

2016年に世界遺産登録されたル・コルビュジェの建築群。イル・ド・フランス地方には、ヴィラ・サヴォワ **la Villa Savoye** があります。



Photo : Paul Kozlowski ©FLC/ADAGP, 2016

常に進化するヴェルサイユ

2017年2月、盛況のうちに幕を閉じた「マリー・アントワネット展」。本国のヴェルサイユ宮殿はどうなっているのでしょうか。こちらは城館、庭園ともに常にどこかで修復作業や新たな見学スペースが作られています。

・もっとも最新の話は、**アラン・デュカス・グループが宮殿内に、コンテンポラリーなカフェ « ORE »**（ラテン語で「口」の意）をオープンさせたこと。店名が示す通り、アラン・デュカスはフランス式ライフスタイルに根ざした口（食）の楽しみ、とりわけ **« bouche du Roi »**（「王の口」＝ヴェルサイユの宮廷で供される食事の支度を担当した部署）に事寄せて挑戦に応えているのです。

・馬車ギャラリーが再オープン

2007年からクローズしていた大厩舎内の馬車ギャラリーが修復を終え、2016年5月よりオープンしています。



© Château de Versailles, C. Fouin

・ジャン＝ミシェル・オトニエルの噴水

日本でも人気のガラス造形作家ジャン＝ミシェル・オトニエルが製作した噴水が2015年からお目見えしています。新時代の作家が庭園内に新たなオブジェが作るのは300年ぶりのこと。



© Château de Versailles, Thomas Garnier

パリ・イル＝ド・フランスの楽しみ方

アートと建築

西にはルイ・ヴィトン財団の大胆な建築群、東にはフィルハーモニー・ド・パリ、観光都市パリにまた新たな顔が加わりました。音楽専用ホールとして随一の施設であるフィルハーモニー・ド・パリは、ここ数年話題沸騰のパリ東部地区にさらなるダイナミズムを加える新たなエンブレムとなりました。

一方パリ西方のセーヌ川の中州、スガン島 île Seguin に 2017 年 4 月 22 日に公式オープンするラ・セーヌ・ミュージカル **La Seine Musicale** は、オー・ド・セーヌ県 Hauts-de-Seine のカルチャー・ヴァレー Vallée de la Culture のハイライトとなるプロジェクトです。ヨーロッパ随一の非常に高度な音楽設備をそなえたこの文化施設は、文化の発信のみならず、その創造と実践のために活用されます。



ラ・セーヌ・ミュージカル © Shigeru Ban Architects
Europe - Jean de Gastines Architectes

食を極める

ヴェルサイユ宮殿内に新しくオープンしたアラン・デュカスのコンテンポラリーなカフェ « ORE » (ラテン語で「口」の意)。店名が示す通り、アラン・デュカスはフランス式ライフスタイルに根ざした口(食)の楽しみ、とりわけ « bouche du Roi » (「王の口」=ヴェルサイユの宮廷で供される食事の支度を担当した部署)に事寄せて挑戦に込めているのです。



© P.Monetta / D.Perrault Architecture / Adagp -
G. Lauriot-Prévost Design / Adagp

庭園

アルベール・カン庭園からロワイヨン修道院のパークまで、バラ園、もみの木、英国式庭園にフランス式庭園、ハーブ園、薬草園に菜園など何ヘクタールにもわたる庭園からは多くを学ぶことができます。こうした庭園の数々を訪ねれば、それらを構想した人々の世界へ旅する気分になれることでしょう。

また 24 時間いつでも入場できる公園も 9 か所あります。モンソーリ Montsouris、ピュット・ショーモン Buttes-Chaumont、アンドレ・シトロエン André-Citroën、オートイユ Auteuil 競馬場のフィールドなど 9 つの公園は、6 月の土曜、日曜と 7 月から 9 月の毎日ノンストップでオープンしています。



フローニュの森、アルベール・カン公園

映画

パリとその周辺地方には他所にはない、ときにはセンセーショナルな、また非常に格式の高い撮影場所が数多くあり、世界中の映画製作者者にインスピレーションを与えて来ました。

ひなびたモンマルトル界隈からルーヴル美術館、マレ地区、セーヌ河畔、ヴェルサイユ宮殿、あるいはフォンテーヌブローやオーヴェール・シュル・オーワズなど、パリ＝イル・ド・フランス地方では毎年 1500 本以上のロケが行われています。名画のシーンを訪ねる旅はいかがですか。



© F.-X. Seren / Picturertank ネプチューンの噴水 ヴェルサイユ宮殿

ショッピング

ファッションの都パリはショッピング天国。ギャラリー・ラファイエット・オスマン店やプランタン・オスマン店など、顧客個人のニーズや好みに合わせて商品を見繕ってくれるサービスのあるデパートで、あるいはショッピングモールで、ラ・ヴァレ・ヴィレッジ La Vallée Village やワン・ネーション・パリ・アウトレット ONE NATION PARIS Outlet などブランド品をディスカウント価格で買えるアウトレットで、パリ・サン・トゥーアンの蚤の市 Marché aux Puces de Paris-Saint Ouen などの骨董市で、そして高級クチュリエに新進のデザイナー…パリではありとあらゆる種類のショッピングが楽しめるのです。



ラ・ヴァレー・アウトレットヴィレッジ

自然

イル・ド・フランス地方にはヴェクサン le Vexin、ガティネ le Gâtinais、オート・ヴァレー・ド・シュヴルーズ la haute vallée de Chevreuse、オーワズ・バイ・ド・フランス l'Oise pays de France の 4 つの地方公園があり、多様な景観とアクティビティを楽しめる生活スペースとなっています。



© CRT IDF/Meigneux

プレスコンタクト Contact Presse

Comité Régional du Tourisme Paris Ile-de-France イル・ド・フランス地方観光局
Catherine Barnouin カトリヌ・バルヌアン cbarnouin@visitparisregion.com
広報・イベント担当 Tel: +33 1 73 04 83 13 www.facebook.com/paristourisme



ノルマンディーの海岸

鉄道が発達すると、印象派の画家たちはノルマンディーの海岸まで足を運ぶようになりました。

ディエップにはルノワール、クールベ、モネ、ピサロが何度も足を運び、英国の前衛派画家らに出会います。ピサロは旧港を16点も描きました。

ブーダン「海と空はこんなにも美しいのだから」とモネが若い時、野外に出て描くことを勧めました。モネはエトルタ、フェカン、トゥルーヴィル・シュール・メール、サンタドレスなど、何度もノルマンディーの海岸線を訪れています。

トゥルーヴィルの海岸に多くの傑作を残したのはブーダンです。

女性画家ベルト・モリゾはシェルブールやフェカンをよく描きました。

セーヌ河口に位置するル・アーヴルは「印象派が生まれた町」。ミレー、ブーダンの他、モネもここで青年時代を過ごしました。

花溢れる港町オンフルールは、画家だけでなく音楽家や文人も多く集った町です。1860年代、モネ、ブーダン、クールベ、バジール、ヨンキントが集った宿屋フェルム・サン・シメオンには現在は5ツ星ホテルとなっています。旧港の周囲はカラフルな木骨組の家が立ち並び、ノルマンディーの代表的な景色となっています。礼拝堂跡はブーダン美術館となっています。



ル・アーヴル マルロー美術館
 (MuMa)

ディエップ シャトー・ミュゼ

オンフルール ブーダン美術館



ルーアン

セーヌ河の湾曲部の入り組んだ一にあるルーアンの街は、古くから芸術家を魅了してきました。ターナー、ピサロ、ゴーギャンら偉大な画家がキャンバスを置いた街です。

モネがルーアンにやってきたのは1892年のこと。サント・キャトリヌの丘に登り、街を眺めながら、この街を描く大きな夢と可能性を感じました。

特にモネが惹かれたのは大聖堂で、これを描くために正面の建物、今はルーアン観光局が入っている建物の2階に部屋を借ります。毎日11時間、同時に9枚のキャンバスを並べて描いたといいます。「印象派の父」モネの、世界でもっとも有名な連作はこのようにしてできあがったのです。



ルーアン、モネのアトリエで絵を学ぶ

モネが実際にイーゼルを置いた場所（現在のルーアン観光局の2階）で、実際に大聖堂を描いてみる絵画アトリエがあります。予約はルーアン観光局まで。

www.rouentourisme.com

ル・アーヴルでモネのレシピを学ぶ

美食家で知られ、レシピ集を残したクロード・モネ。彼のレシピを再現する料理教室がル・アーヴルで開催されています。予約は現地観光局まで。
www.lehavretourisme.com



Rouen Cathédrale de Lumière © Métropole Rouen Normandie L. Leloup CRT NormandieNormandie

ルーアン美術館

ルーアン ノートル・ダム大聖堂

ジヴェルニーとヴェルノン

1883年当時ヴェトウイユに住んでいたモネは、ヴェルノンからガスニーに行く列車に乗った時、窓から見たジヴェルニーの景色が天国の片隅のように思えました。

この地に一目惚れしたモネは、まずは借家として、1890年には家を購入し定住します。庭を整備し、池を作って睡蓮を育てました。

ここで過ごした43年の暮らしの中で、モネは喜びと共に、病気や家族の死に苦しむこともありました。ジヴェルニーのモネの家は、彼が日本の芸術をこよなく愛していたことが解ります。北斎、広重、歌麿など素晴らしい浮世絵コレクションが飾られ、庭には東洋の植物が生育し、赤い太鼓橋まで掛けられています。



Jardin de Giverny
 Nénuphars © L. Leloup CRT

クロード・モネの家と庭園

ジヴェルニー印象派美術館

ホテル・ボーディー

モネ、セザンヌ、ロダン、ルノワール芸術家が集ったホテルレストラン。

モネの墓

AG プーラン美術館

オーヴェール・シュル・オワーズ

ゴッホの足跡を訪ねて

ゴッホは「オーヴェールは驚くほどの美しさだ」と弟テオ宛の手紙に書いています。コロー、カミーユ、ピサロ、セザンヌも訪れたこの地に、ゴッホは1890年、隔離病棟にいた南フランスから移り住みました。ガシェ医師がゴッホの身元引受人のような役割を果たしました。

ゴッホはここで人生最後の70日間、最も凝縮された日々を過ごし、「オーヴェール・シュル・オワーズの教会」ほか80点の作品を残しています。

彼の詩は今でも謎に包まれています、弟のテオと共に、村の墓地に眠っています。

オーヴェール・シュル・オワーズは、今も牧歌的で絵画的な風景が広がり、まるで野外美術館のようです。

2CVでパリから行く オーヴェール・シュル・オワーズ

レトロカー2CV(ドゥ・シュヴオー)に乗り、運転手と共にオーヴェールへ。ゴッホの足跡を辿る1日ツアーに参加してみませんか。

www.4roues-sous-1parapluie.com

パリから開かれた印象派の扉

新しく変化したパリの街は印象派の画家たちに多くのインスピレーションを与えました。そして、鉄道が発達し、チューブ絵具など画材も便利になり、余暇を楽しむ人が増えたことなども、首都から郊外に絵のモチーフを探しに行くきっかけとなりました。

セーヌ河の湾曲部近くにある小村や河岸では、喧噪を離れた楽しい舞踏会やボート遊びを楽しむ人たちが賑わっていました。モネやルノワールは「舟遊びの昼食」や「ラ・グルヌイエール」に見られるように、その喜びに溢れる光景を描きました。

モネはアルジャントウイユからヴェトウイユ、ジヴェルニーへと、セーヌ河を西へと移動して行きます。

カイユボットは、パリの西にあるイエールの家族の館でインスピレーションを得、何作か作品を残しています。

ゴッホはモンマルトルに住んだ後、オーヴェール・シュル・オワーズで人生最後の日々を過ごし、その3か月後に80点を超える作品を描きました。

喧騒の街、パリ

1859年、モネはル・アーヴルからパリへ引っ越します。モネはパリを「喧騒たる街」と呼びました。ナポレオン3世が第二帝政を宣告した直後で、パリ市はオスマン侯爵による大都市改造が行われていました。カフェ、コンサート、ブラスリー、ダンスホール、サーカス、公園などが次々と作られた頃です。印象派の画家たちもこうした場所に集まり、近代化された町に興味を抱き表現するようになります。

マネ、モネ、ドゥガ、ルノワール、ピサロ、カイユボットは、街の中や日常生活の中に新しいモチーフを発見します。

首都パリには多くの印象派コレクションが展示されています。特にモネ、印象派に関連する貴重な遺産を見ることができません。



オルセー美術館
© CRT IDF/Tripelon-Jarry

モンマルトル散策のお供はスマホアプリで

モンマルトル観光局では、ルノワール、ピサロ、ドゥガ、ゴッホなど、印象派画家にまつわる場所を、インタラクティブな操作で誘ってくれるアプリを販売しています。ios, android 対応。
www.montmartre-guide.com



ラヴー亭

オーヴェール・シュル・オワーズ城

ガシェ医師の家

ゴッホの墓

アブサン博物館

印象派を巡る散策道

メゾン・フルネーズ (シャトゥ)

バルビゾン博物館

カイユボットの家 (イエール)

シスレーの足跡を訪ねて

オルセー美術館

オランジュリー美術館

モネ・マルモタン美術館

モンマルトル美術館-ルノワールの庭



オーヴェール・シュル・オワーズ © CRT IDF/Tripelon-Jarry



エールフランス航空 Air France



エールフランス航空でパリへ、ヨーロッパへ 選べる便利なフライトスケジュール www.airfrance.co.jp

エールフランス航空では羽田、成田、大阪からパリへの直行便を週最大 22 便で運航しています。東京、成田から 11 時、羽田からは 14 時、22 時 55 分の 3 便から選べる便利なフライトスケジュールです。
 最新の客室を装備したボーイング B777-300 及び B777-200 を使用。ボーイング B777-300 には 4 つの客室（ファーストクラス 4 席、ビジネスクラス 58 席、プレミアムエコノミークラス 28 席、エコノミークラス 206 席）を装備。ボーイング B777-300 は東京路線の成田発 AF275 便、及び羽田発 AF293 便の全てのフライトで運航されます。羽田発 AF279 便及び大阪発 AF291 便ではボーイング B777-200 を使用。こちらも最新の 3 つの客室（ビジネスクラス 40 席/または 28 席）、プレミアムエコノミークラス 24 席、エコノミークラス 216 席/または 260 席）が装備されています。

【最新の客室について】

ファーストクラス、ラ・プルミエール

空に浮かぶスイートルーム空間

- 贅を尽くしたインテリア、雲の上のスイートルーム 4 室
- 卓越した美食の世界、フランス料理の真髄を一流のサービスと銘醸のワインで
- きらめく星に囲まれて、空の上の心地よい眠り
- 全ての望みがかなう、こだわりの空の旅
- 出発から到着までテラーメイドのサービス

じっくりと味わう貴重な時間、時空を越えた居心地の良さを追求したエールフランスのファーストクラス、ラ・プルミエールは空に浮かぶスイートルーム空間です。

パリ出発時には駐機場まで専用車でお送りし、飛行機に直接ご搭乗いただくサービスが好評です。

スイート全体の長さ 2m シート幅 57 センチ ベッド幅 77 センチ

ビジネスクラス

3つのFがコンセプト

- **FULL FLAT** - 180度フルフラットのベッドになるシートで快適な眠りを
- **FULL ACCESS** - 全ての座席から通路へのダイレクトアクセスが可能
- **FULL PRIVACY** - 完璧なプライベート空間を可能にした、包み込むような曲線のデザイン

肘掛を下げれば幅 72 センチ、長さ 1.96 メートルの快適なベッドに変身。軽くて柔らかい大判の

羽毛ふとんとゆったりサイズの羽枕で上質の眠りをお約束します。

1-2-1 の配列でどの席からも直接通路にアクセスが可能。真ん中の二席では可動式の仕切りを設置。包みこむような、なめらかな曲線のシートの構造は一人ひとりが思い通りに時間を過ごす事のできるプライベート空間を可能にしました。

シートピッチ 97 センチ リクライニング 180 度 シート幅 68~72 センチ

プレミアムエコノミークラス

気軽に楽しめる快適な旅

エコノミークラスより40%広い空間、人間工学に基づいてデザインされたシェル型シートは24席~28席の落ち着いた空間です。10.4 インチのタッチ型スクリーン、ヘッドフォンにはノイズキャンセリングシステムを導入しています。好評の有料アラカルトミールは出発の90日前から24時間前までの事前予約でお召上がりいただけます。チェックイン、ご搭乗、預け入れ荷物のプライオリティデリバリー、パリ出発時、到着時のパスポート検査など、ビジネスクラスと同じスカイプライオリティ（優先）サービスが好評です。

シートピッチ 97 センチ リクライニング 123 度 シート幅 48 センチ

エコノミークラス

足元が広くなり、高解像度のタッチスクリーンは9インチ

さらに機能的で使いやすくなった快適なシート、足元のフットレスト、調整できる柔らかなヘッドレストでゆったりとおくつろぎいただけます。パソコン用の電源ポート、ワイドサイズのテーブル、高解像度のタッチスクリーンは9インチで鮮明な画面で150以上の映画やテレビ番組、音楽やゲームなどをオンデマンドでお楽しみいただけます。スクリーン下には便利なUSBポートを設置しました。好評の有料（15-28ユーロ）のアラカルトミールは事前予約可能（出発24時間前まで）。有料でシートオプションサービスを提供。より足元の広いシートが指定可能です。

シートピッチ 84 センチ リクライニング 118 度、シート幅 44 センチ

【新しい乗り継ぎ専用ラウンジ】

パリ、シャルル・ド・ゴール空港からはヨーロッパの主要都市への豊富な乗り継ぎ便でその日のうちに目的地へ到着が可能です。パリ、シャルル・ド・ゴール空港には3時間以上の乗り継ぎ便のお客様には機内のクラスを問わず、どなたでもご利用いただける新しい乗り継ぎ専用ラウンジ、「アンスタン・パリ」が2EターミナルのLゲートにオープンしました。パリのお洒落なアパートマンをイメージした素敵な空間でゆったりお過ごしください。（写真はアンスタン・パリのエントランス）



プレスコンタクト Contact presse

エールフランス航空/ KLM オランダ航空

コミュニケーション&PR部 山本 裕美子 Yumiko YAMAMOTO

TEL : 03-5797-8525 FAX : 03-3583-7011 yuyamamoto@airfrance.fr



PEUGEOT

プジョー Peugeot



フランスならではのデザイン性と先進技術を兼ね備えたプレミアムブランド。

プジョーのブランドスローガンは「MOTION & EMOTION」。モビリティの将来がいかに変化し多様化しても、プジョーは、常に「モーション」を続け、最先端の技術ともの作りへのこだわりを形にしていきます。そして、魅力的な「エモーション（感動）」を与えるドライビングを絶えず見据えています。

ディーゼルエンジンの量産化や独立懸架式フロントサスペンションの先駆者であり、折りたたみ式ルーフ車の市販化やガソリン・インジェクション、微粒子フィルター（FAP）のパイオニアであるプジョーは、現在も常に新しい技術革新にチャレンジしています。環境問題への取り組みにおいても、プジョーはドライビングプレジャーを犠牲にすることなく、さらなる高次元の環境性能に挑戦を続けます。

今回、東京都内をキャラバンする 308 は、昨年 7 月に発売したディーゼルエンジン搭載モデル。PSA グループの開発による 1.6 ℓ、2.0 ℓ Blue HDi ディーゼルエンジンと、第 3 世代を迎えた 6 速オートマチックトランスミッションを組み合わせた最新モデルです。優れた環境性能と低燃費、トルク感あふれるドライビングプレジャーを兼ね備えた 308 が、都内各所をクリーンドライブいたします。

プジョーはその 200 年を超える歴史の中で、ブランドエンブレムであるライオンマークを付けた様々なプロダクトを世に送り出してきました。それは自動車をはじめ工具類、コーヒーミルやペッパーミル、そしてモーターバイク、自転車など、実に多岐にわたるものです。幅広い分野で、創業期の鋼鉄加工から受け継いだ妥協

なきモノ作りへの姿勢を守りつつ、歴史の流れ、ライフスタイルの変遷、そしてユーザーの変化にブランドを適応させ、フランスらしい独自のスタイルと気品を生み出してきました。

そして、今後のプジョーを象徴するのは「SUV」モデルです。昨年 9 月には、都会的でスタイリッシュなデザインと、上質なコンパクト SUV「NEW 2008」を発売、さらに本年は洗練されたデザインにプジョーが持つ最新技術を結集した「NEW 3008」を発表いたしました。今後も、SUV カテゴリーに新モデルを投入していきます。プジョーの SUV の力強いパフォーマンスはモータースポーツでの結果にも裏づけられています。本年 1 月に南米で開催された DAKAR 2017 では、プジョータルチームが 1-2-3 フィニッシュを果たし、表彰台を独占。その圧倒的な強さを示しました。

フランスのエスプリが効いたデザインと、最新の技術が生み出すドライビングプレジャー。今後も変わらないブランドの精神を守りつつ、常に新しい価値を提供していきます。



プレスコンタクト Contact presse

<http://www.peugeot.co.jp>

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室 TEL : 03-5468-1311
プジョーコール TEL : 0120-840-240

株式会社エイチ・アイ・エス H.I.S. Co., Ltd.



フランスの魅力を堪能できる3つの貸切企画を実施 ～H. I. S. だから出来る特別企画でさらに旅ナカを充実～

【貸切①ルーヴル美術館】

毎年好評頂いておりますルーヴル美術館厳選フロア貸切見学も、今年で9年目を迎えます。発売前より、次回の実施日についてご質問いただくなど、お客様からのご要望も高いいただいております。年間入場者数世界一を誇る美術館をH.I.S.のお客様だけで貸切するため、いつも混雑する人気の「モナリザ」もゆったり鑑賞できる人気の企画です。

【貸切②ヴェルサイユ宮殿】

昨年実施し大好評を得たヴェルサイユ宮殿の貸切見学を今年も実施いたします。観光客で非常に混み合う宮殿内の「鏡の間」も日本語での解説を聞きながらゆったり見学ができます。計357枚の鏡で装飾され、反射した光により美しく輝く空間を、貸切だからこその静寂の中ご覧いただけます。

今年は上記2つの貸切企画に、パリコレでも活躍されているフランス在住の日本人カメラマンによる撮影レクチャーも付いており、いつもよりワンランク上の撮影を目指したい方にもおすすめです。

【貸切③バストロノーム】

ガラス張りの2階建て観光バスをレストランに改造した観光ツアーが、今年初の貸切企画として登場いたしました。パリの美しい名所を巡りながら本格的なフルコースのフランス料理を堪能いただく、美景と美食を一度で楽しむ企画となっております。



3つの貸切企画を盛り込んだ、添乗員同行の旅「インプレッツ」、個人旅行パッケージ「チャオ」のほか、期間中エールフランス指定でパリ行き航空券をお申込みいただいたお客様に、アラカルトミールを特別にご提供させていただく企画もご用意しております。皆様のお問合せをお待ちしております。

プレスコンタクト Contact presse

広報 宇佐美 加奈 Kana USAMI
TEL : 03-5908-2346 his-pr@his-world.com

レイルヨーロツパジャパン Rail Europe Japan



列車ならフランス各都市から近隣諸国まで、 便利でスムーズにアクセス！

フランスは、パリを中心に放射線状に鉄道網が広がり、列車を利用すればフランス国内はもちろん、近隣諸国にも簡単に足を延ばすことができます。

モンサンミッシェルの最寄駅レンヌまでは、高速列車 TGV でパリから約 2 時間 8 分、フランス最大級のクリスマスマーケットが開かれるアルザス地方の都市ストラスブールへは TGV で約 2 時間 17 分で到着。最近注目のノルマンディー地方へもパリから約 2 時間でアクセスできます。

現在、フランスでは高速線路の延伸工事が進んでいます。パリ～ポルドーを結ぶ TGV アトランティック線、ブルターニュ地方を走るブルターニュ - ペイ・ド・ラ・ロワール線、フランス南部とスペインを結ぶニーム - モンペリエ バイパスなど、これらすべて 2017 年中に延伸される予定です。開通すれば、各都市間の所要時間は最大 1 時間短縮されます。

またパリからは、国際線で様々な国に行くことができます。パリからブリュッセルへは高速列車タリスで約 1 時間 22 分、ロンドンへはユーロスターで約 2 時間 15 分、ジュネーブへは TGV リリアで約 3 時間 5 分、フランクフルトへは、フランス・ドイツ高速列車で約 3 時間 50 分、バルセロナへはフランス-スペイン高速列車で約 6 時間 25 分です。

列車を利用して、便利にスムーズに魅力溢れるヨーロッパの各都市を訪れてみませんか？

プレスコンタクト Contact presse

在日代表 加々美 恵理 Eri KAGAMI

TEL : 03-5212-1160 kagami@raileurope.jp www.raileurope.jp

アンスティチュ・フランセ日本

Institut français du Japon

INSTITUT
FRANÇAIS

アンスティチュ・フランセ日本
JAPON



フランスへの近道

アンスティチュ・フランセ日本

毎年 2000 人を超える日本人が 3 ヶ月以上の長期フランス留学に旅立っています。短期間でフランス語やフランス文化を学ぶために渡仏している人も加えると、日本からフランスに留学している人は数知れません。

フランス政府公式機関の「アンスティチュ・フランセ日本」は、それぞれの目的に合った留学計画のサポートもしています。2 年ぶりに開催される『フランス語学留学フェア』（【東京】3/18 日（土）【京都】19 日（日））では、日本からの留学生の受け入れに積極的な学校が参加し、各校の現地スタッフがブースにて個別相談に応じます（予約不要、入場無料）。また、当日は、無料のフランス語体験レッスンやセミナーも開催され、フェアの終了時には、ANA の日本ーフランス往復航空券、フェア参加校への短期留学、アンスティチュ・フランセのフランス語講座などが当たる抽選会も予定しています。

日本にいなからフランスを体感できるアンスティチュ・フランセでは、いつでも皆様をお待ちしています。多様な他に類を見ないイベント（映画、ライブ、舞台芸術、展覧会、講演会、ワインセミナーなど）が盛り沢山です。

プレスコンタクト Contact presse

広報担当 津田 桜 Sakura TSUDA Responsable du pôle communication et mécénat

TEL : 03-5798-6008 sakura.tsuda@institutfrancais.jp www.institutfrancais.jp

ローラン・ペリエ Laurent-Perrier



英国王室御用達シャンパンメゾン 「ローラン・ペリエ」

ローラン・ペリエ社は、1812年創業で、前当主ベルナール・ドゥ・ノナンクールが、独創的かつ高品質なシャンパン造りを追及する事により、家族経営 NO.1 の規模にまでしたシャンパンメゾンです。英国王室との関係も深く、1998年に「プリンス・オブ・ウェールズ（英国皇太子）」の認証を受けています。

ローラン・ペリエ社のシャンパンに全て共通するスタイルは、「フレッシュさ」「エレガントさ」「バランスの良さ」。「ロゼといえばローラン・ペリエ」と評されるローラン・ペリエ

エロゼ。ピノ・ノワール 100%によりベリーをかご一杯に詰めたような芳醇な香りが特長。フラッグシップである「ローラン・ペリエ グランシエクル」は、最高の3つのヴァンテージの最高の畑のぶどうのみで造られたプレステージシャンパン。最高のものを匠の技で掛け合わせた、アッサンブラージュ（ブレンド）アートと言うべきシャンパン。その高い品質故に、世界唯一のシャンパンに特化した雑誌「ファイン シャンパーニュ マガジン」が、毎年1,000以上のサンプルからブラインドテイスティングで選ぶベスト100を選定で、「ローラン・ペリエ グランシエクル」が、並み居るプレステージシャンパンを抑え、2016年のNO.1に選ばれました。高品質のシャンパンを造り続ける事により、現在160カ国以上に輸出され、フランス国内外の最高級のレストランを始め、多くの文化人、世界のVIP、美食家の御用達の最高品質シャンパーニュとして、広く愛されています。

お問合せ

サントリーお客様センター

TEL : 0120-139-380 <http://www.suntory.co.jp/wine/>

ピエール・エルメ・パリ

PIERRE HERMÉ
 PARIS

PH PARIS JAPON K.K.



「ピエール・エルメ・パリ」が構築する 『味覚・感性・歓喜の世界』

ピエール・エルメは、21世紀のパティスリー界を先導する第一人者。4代続くアルザスのパティシエの家系に生まれ、14歳のときガストン・ルノートルの元で修業を始める。常に創造性あふれる菓子作りに挑戦し続け、独自の「オート・パティスリー」（高級菓子）のノウハウの伝授にも意欲を燃やしている。多くのスイーツファンから絶賛を浴び、同業のパティシエたちからも畏敬されている。その鬼才ぶりは世界的に認められ、ヴォーグ誌から「パティスリー界のピカソ」と称賛された。徹底的に素材にこだわり、精緻な技巧を駆使して創り上げる絶品の数々はどれも清楚な美しさを見せる。



“味覚の喜びだけが唯一の指針”をモットーとするエルメは、真に独創的な『味覚・感性・歓喜の世界』を構築している。

1998年、自身のブランド「ピエール・エルメ・パリ」として、東京赤坂のホテルニューオータニ内に初出店し、2001年にはパリのボナバルト通りにもブティックをオープン。2007年、レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを授賞。現在、国際的なプロ菓子職人協会「ルレ・デセール」の副会長としても活躍している。そして2016年、『世界のベストレストラン50アカデミー』より「世界の最優秀パティシエ賞」を授賞した。

「ピエール・エルメ・パリ」は高名なコルベル委員会に所属し、パリ、ストラズブル、ニース、ロンドン、ドバイ、ドーハ、東京、横浜、大阪、神戸、京都、香港、ソウル、バンコク、およびマカオなどに事業展開している。

プレスコンタクト Contact presse

広報部

Tel 03-5485-7788 pr@pierreherme.com <https://www.pierreherme.co.jp/>

2017年

キャンペーンパートナー

ノルマンディー地方観光局
Comité Régional de Tourisme de Normandie



パリ・イルドフランス地方観光局
Comité Régional du Tourisme Paris Ile-de-France



エールフランス航空
AIR FRANCE



プジョー
PEUGEOT



株式会社エイチ・アイ・エス
H.I.S. CO., LTD.



レイルヨーロッパジャパン
Rail Europe Japan



アンスティチュ・フランセ日本
Institut français du Japon



ローラン・ペリエ
Laurent-Perrier



ピエール・エルメ・パリ
PH PARIS JAPON K.K.



フランス観光開発機構 広報部

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-9 ラウンドクロス赤坂 9 階
増田真由美 Tel 03-3582-6968 / 青木麻里子 Tel 03-3582-0994
presse.jp@atout-france.fr

